

磐城新聞

行發日九十月八 季節を他所にして、千代田るものとばかり思つてゐた...

愚庵の臨終

岡田生

人の死を傍観する、そんなことを要するものは無意味だ。人は人間として出来る事、人間を超えたいやうな事...

夏木立

牧實紀雄

樹は静々と盛上り、死の影、よ／＼深くして、私が生きてゐた事や...

若葉の想ひ

中 都 孝 子

○野邊となし山となしつ御園生のタンポポ今朝を咲き盛るなり



季節を他所にして、千代田るものとばかり思つてゐた。大奥には、まひの色が深...

十七日、早晩、櫻井一久、白雲子、元策は愚庵の浮腫した顔を覗き込んだ...

そして彼は早くも「將軍の病氣は、決して『倍』、時機は近づいた」といふことを感じた。

努力を功にせず、即今機熟此興工百年一日快斯水...

この命令に按した一團は「倍」、時機は近づいた」といふことを感じた。そしてその夜の間に乗じ...

平病院 (平市元共済病院) 院長 醫學博士 鈴木定藏. 小児科 鈴木定藏. 皮膚泌尿器科 鈴木定藏. 物理療法科 鈴木定藏.

常陽證券株式會社 株は一株から、債券一枚より買賣致します. 平支店 電話七四〇・七八五. 高萩支店 電話二九〇.

磐城の御みやげ品 靈峰羊羹 (名産柿煉). 平屋賣店. 中野齒科醫院. 平製米會社.

### 平市にも放送局設置

#### 既に波長統合計画成立

福島郡山に今年度放送局が設けられる。平市にも放送局が設けられる。既に波長統合計画成立。

### 豊かて無いお台所に 恵みの廿六萬六千圓

#### 一般補給金配當額決る

昭和三十二年 昭和三十二年 昭和三十二年 昭和三十二年

### 離職者よ來れ

#### 新生活面々あり

立澤紹介所長の話 地方だけに離職の弊が...

### 平織物染色組合創立

#### 時局善處の活動開始

地方新報の改良を目的とする。平織物染色加工...

### 血路を求むる彼等

#### 死力を盡して抵抗

元入山従業員 松田権七君(上) 要衝を城を抜く...

### 戸數割に七割か

#### 市町村と之の決定

市町村と之の決定 市町村と之の決定...

### 公會堂竣工式協議

#### 見習工試験 平職業

見習工試験 平職業 見習工試験...

### 好問村更生

#### 指導會

好問村に於て本部第二指導會...

### 最初の廢品回収日

#### 腕章姿も凛々しく

腕章姿も凛々しく 腕章姿も凛々しく...

### 大越中佐 故大越中

#### 令妹献金 佐の令妹

令妹献金 佐の令妹 令妹献金...

市町村	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	
勿来	二、六二四	上野	五三	湯本	五、六二二
野九	四、二七八	入道	七、四一四	四間	一、四七
川部	六、六六二	赤井	一、〇四	八	四、八
田五	三、一九九	荷路	七、五五五	九四九	三
一〇四	貝沼	九、一〇	輪三	六、八三	深
石住	九、二九	飯野	五、二一	三	三、九
二	夏	三、五	神	七、〇七	三
高久	六、三六	九	〇	六、九	一、五
七九	五、一三	一	四	六、九	五
二	鹿島	一、四	小	四、六	九
五	一、四	玉川	九	下	小
五	九、二五	碧崎	七、七	川	前
				七	一、七

補給金の割當を受けた市町村も昨年同様関係のもの... 昭和三十二年 昭和三十二年 昭和三十二年

市町村と之の決定 市町村と之の決定...

見習工試験 平職業 見習工試験...

### 好問村更生

指導會

好問村に於て本部第二指導會...

### 最初の廢品回収日

腕章姿も凛々しく

腕章姿も凛々しく...

### 大越中佐 故大越中

令妹献金 佐の令妹

令妹献金...

### 公會堂竣工式協議

見習工試験 平職業

見習工試験...

### 吉田眼科醫院

平市結屋町電話六八番

醫學士 吉田久雄

### 事務員と見習募集

事務員は廿三歳から卅三歳まで

見習は十五歳から十八歳まで

姓名 在社

### 皮膚科 泌尿科 性病科

江尻醫院

平市田町

電話 六九二

### 吉田眼科醫院

平市結屋町電話六八番

醫學士 吉田久雄

### 鈴木醫院

平市田町

電話 三三三

### 西村藥局

平市田町

電話 三三三

### 吉田眼科醫院

平市結屋町電話六八番

醫學士 吉田久雄

### 江尻醫院

平市田町

電話 六九二